

世界のトップ選手が使用するバドミントン用ガットを製造

CRSスポーツ工業株式会社

今年、村内に2工場を開設したCRSスポーツ工業株式会社。バドミントンラケットの世界的なブランドに高品質のガットを提供しています。

業績が急速に拡大する中、工場用地と人材を求めている佐藤社長。亡き父の故郷、川俣町飯館地区に残る、飯館村の仮設小学校跡地を用地の候補と考えました。

相談のために役場を訪れた今年の1月、「産業団地ができることを踏まえて村内に進出しているかどうか」と提案を受け、既存の建物を活用して村内に工場を開設することになりました。[飯館工場]には旧草野小学校の一部、[飯樋工場]には飯樋町の空き工場を活用。それぞれに数十台の機械を運び入れ、4



製紐は自動化が進んでいて、編む機械は5,000mを編むまで2週間動き続けます。



大東さんのクラスにだけ残っていた道具掛けの名前のシール。奇跡の再会です。



飯館工場（旧草野小学校）の中庭にて。

CRSスポーツ工業株式会社

飯館工場 飯館村草野字大師堂113-1

飯樋工場 飯館村飯樋字町455

(本社) 埼玉県北葛飾郡杉戸町下野835-1

☎ 0480-37-2658 (本社)

<https://crssi.co.jp/>

月の稼働に漕ぎつけました。「すぐに使える場所を提供いただき、本当に助かりました」。

20代の社員2人が埼玉県から赴任し、5人を現地で採用。7人体制で2工場をスタートしました。求人には60人の応募があり「飯館でも人は来る」と自信も深めました。旧草野小学校の体育館にも工場を拡大し増員する予定で、拠点を埼玉県から移す構想も浮上しています。

同社は、拠点に根を張ることを大切に考えています。「地域に根ざさないと、いいものはつくれない。長く働き家庭を築いて、やがてその子どもがここで働く、そんな会社になりたいの

です」と佐藤社長。「飯館村の皆さんの熱意と温かさに感激しました。社員と共に、イベントや祭りに協力したいし、バドミントンで村おこしも考えたい」。

そして、運命的な出会いは続きます。現地採用の1人、飯館村出身の大東かりんさんは、震災時、草野小学校の2年生でした。避難先の福島市の中学校でバドミントンを始め、今も社会人サークルでプレーしています。

「まさか草野小学校で働くことになる」と微笑む大東さん。当時の面影を残す校舎で働き、母の実家で、祖母のつくる昼ごはんを食べるという新鮮な日々を過ごしています。

春日部大風を村に寄贈

5月24日、村内で2工場を開設したCRSスポーツ工業株式会社（P25に詳細）が、『春日部大風あげ祭り』（埼玉県春日部市）に出品した大風を村に寄贈しました。祭り当日の去る5月5日には、杉岡村長が現地を訪れ、佐藤社長と共に「根」の字が描かれた大風を空に揚げました。（来年揚げる大風は「芽」の字だそうです）



アヤメとポピーの花畑が話題に

桑折町の小野孝明さんが、関沢地区の知人から有休農地を借り受けて、令和3年から手入れを続ける『結GARDEN』。紫色のアヤメを移植し、株を増やして写真のような景色をつくり出しています。また、一段下がった場所には、ポピーの花畑もつくっていて、花便りを聞きつけた人々が、遠くからも訪れています。「これからもコツコツ続けて花畑を広げていきたい」と小野さん。ポピー畑の見頃は6月中旬までの見込みです。



米国学生がスマート農業実装を視察

5月22日、アメリカ合衆国ジョージア州のケネソー州立大学の学生らが村で視察研修を行いました。引率のダニエル・フェレイラ教授が福島に関心を寄せたのは、平成25年に米国土壌学会で溝口勝教授（東京大学農学生命科学研究科）らが主催した「福島における土壌科学者たちの挑戦」がきっかけ。溝口教授によるスマート農業技術の社会実装を視察しようと、学生と共に来村しました。一行は、機器を設置する菅野宗夫さん（佐須）の水田で田植えを体験し、村内各所を視察。稲の成長はアメリカからも観察できるそうです。※右QRから▶



飯館村婦人会が道路の美化活動

5月11日、飯館村婦人会（長谷川花子会長）の皆さんが、村内で奉仕作業を行いました。何年も続く美化活動です。今回は、商工会前から役場までの約2.3kmの道のごみ拾いを行っていただきました。本当に、ありがとうございました。



婦人会の皆さんは、今回のような環境美化のボランティアの他、村のイベントなどで地域のための活動を行っており、随時会員募集中とのことです。連絡先 ☎ 090-6250-6748（長谷川会長）